

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人 小羊学園

〒433-8105

静岡県浜松市北区三方原町 2709-12

電話：053-414-1833 FAX：053-438-7707

E-mail kohitsuji@imix.or.jp

H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人：稲松 義人

印刷所：聖隷サービス(有)

定 価：一部 30 円

2009年7月20日

第 315 号

「障がいのある子どもの支援の在り方」

〜継続的な支援ができる児童施設への転換〜

三方原スクエア児童部 施設長 山崎 陽司

「高等部を卒業してもこのまま小羊学園に入所していたいです」先日面接をしたご両親の言葉です。児童部に長年入所をしていて成人になったので成人部へというのがある意味とてもわかりやすい希望であります。本来成人施設は、施設と利用者（又は成年後見人）との契約ですから、双方が合意すれば契約できるはずなのですが、現在は緊急性の高い順に入所できるようにするための利用調整があり、利用調整の点数が高くなければ、児童部においても成人部に入所できるわけではないのです。

一方、厚生労働省では障がい支援の見直しに関する検討がなされ、十八歳以上の児童施設入所者（重症心身障害児を除く）には障がい者施策で対応すべきとの意見があると聞いています。成人入所施設をこれ以上増やさない方向の中で、どれだけ現実的な施策が出されるのか見守っていきたいと思えますが、いずれにしろ十八歳を過ぎたら児童施設を退所する方向で考えて行かなければなりません。

小羊学園はこれまで「おおぞらの家」「若樹学園」を創り、さらに「青年寮」を児童寮に併設するなど、成人施設を創りながら過齢児の問題を乗り越えてきました。その後、十八歳以下の入所

児童が二人になってしまいう時もありましたが、短期入所や夏期デイサービスを始めたり地域療育等支援事業「アグネス」を開設し、在宅障がい児とご家族との情報を共有していく中で、次第に入所する児童が増えてきました。そんな背景の中で二〇〇八年三月に高等部を卒業した五人全員が退所することができました。小羊学園の四十二年の歴史の中で初めてのことです。

A君は八歳で入所しました。家では弟や妹の子育てでも大変な状況で、一度入所してしまうとご両親にとっては、なかなか家に戻す心構えがでなくなっていました。そんな中、週末帰宅を行いながら退所への準備を重ねてきました。そもそも「粘ればいつまでも置いてくれるよ」という風土のようなものが小羊学園にあって、大変でした。面接を繰り返し、親御さんとの信頼関係を築く中で、学校からの実習を家から通わせてみるなど、少しずつですが在宅に戻す意識が芽生えてきました。

施設を退所するということは、住む所と通う所をセットで保証しなければなりません。そこで退所後に通う場所を必死で探しました。結局、三方原スクエアの日中活動を利用することになってしまいましたが、日中一時支援や短

期入所の支給量をたくさん出していただくよう浜松市と交渉しながら、なんとか在宅に戻すことができました。他の四名の場合も退所までの経緯に

ついて、それぞれの状況に応じた中で職員必死の取組がなされたことは言うまでもありません。

これからの障がい児支援の在り方として、障がい児のライフステージに応じた支援が求められています。つまり就学前の時期から就労・地域における自立に向けて、児童発達支援・放課後等デイサービス・施設入所支援・在宅サービスなどを利用しながら、個別支援計画による一貫した支援を行なうということです。つまり子どもの成長に沿った継続的な支援ができる働きが求められているのです。

その実現のためには、まず相談支援事業を中心としたケースワークのシステムを確立する必要があります。同時に親御さんにも子どもの自立について真剣に子供と向き合って相談のできる親になってもらわなければなりません。一方で、「地域」をキーワードにして家庭と学校と施設が連携できることが大切で、さらには、児童相談所・他の施設・区役所・病院・地域住民・企業といった人たちが、それぞれの立場で連携していかなければなりません。これらのことが実現していくことを願いながら、目の前の小さな命を支える働きに全力を注ぎたいと思います。

通所施設の授産活動 紹介！

法人内には三箇所の生活介護事業所があります。今回は、夫々の事業所が日常的に生産している授産製品を紹介したいと思います。

「マルカートの授産製品」

支援員 山崎 汐美



マルカートは浜松市中田島砂丘の近くにあり、海の香りや波の音を感じる事の出来る場所にあります。その砂丘の延長線上の様な広い畑を、マルカートに通所されているYさんのお宅よりお借りし、色々な野菜を育てています。植え付け、水遣り、草取りなど、暑さ寒さ乗り越えて大変に時間が掛かりますが、畑に出掛ける度に目に見える程の成長を見せてくれる作物達は、大変愛おしい物です。

苦労して育ててきた作物達が、収穫を向かえる時、皆の歓声が響きます。そしてそれが食卓にあがった時、その味は他に比

べ様もない程最高です。自然に対する感謝と苦労を皆が共有してきたからです。Yさんのご両親の勧めもあって、ここ中田島で生産が盛んな「エシャレット」を育てています。「エシャレット」は、フランス料理などで最近耳にする「エシャロット」とは似ていますが実はラッキョウの一種です。

昨年より、試しに作って販売を始めたのですが、予想以上に多くの方に買って頂く事が出来ました。今年度は、保護者会のご協力もあり、昨年度の倍以上の作付けをし、五月後半よりラッキョウ作りを七月末日まで行う予定で頑張っています。作業内容としては、収穫、根と茎切り、皮むき、ラッピングなどの工程をそれぞれが出来るところを分担して行なっています。今年度は、施設長自らが「営業担当」となり、張り切って宣伝をし注文を受けてきたので初めから注文が殺到し、嬉しい事に大忙しです。中田島のラッキョウはあまり有名ではないので「マルカートがもつと中田島のラッキョウを有名にしたいね」などと皆で意気込んでいます。又、畑では、エシャレットの横に咲くハーブの香りがほのかに漂い、気持ち癒してくれれます。このハーブを使ってポプリや入浴剤も作っています。ポプリは、小さい袋をミシンで縫って、乾燥したブレンドハーブを入れていきます。ロッカーやクローゼットに入れて置くと、心地よい香りが気持ちを癒



マルカートでは、この二つの商品販売し、得た収入でボーンズ支給したり、食事や喫茶外出をして楽しんでいきます。今、その楽しみを心待ちにしながらラッキョウ作り全員総出でフル回転の時期を迎えています。

「オリーブの樹 パン工房」

支援員 村松 幸子

現在、オリーブの樹では主に木工作業・空き缶やペットボトルのリサイクル作業・パン工房・わかぎ内ハウススキピングの四つに分かれ作業をしています。以前は近隣にある「たちばな授産所」から仕事をいただきミラーマット作業も行っていました。しかし、この不景気の影響を直に受け、この仕事はなくなってしまうました。施設内の利用者数もわかぎ・わかかな利用者を含め五〇名を超えているため、新たな作業を行うにはスペースが確保できないな

どの問題点もあり、現在四つの作業で活動しています。

パン工房は平成十八年より利用者にする楽しみと、販売等を通じて自信を持てるような活動を支援するために開始しました。多くの方のご協力もあり、平成二十年には、販売が出来るまでになりました。始めた当初は職員も素人で、何からやればいいのか分からず、途方に暮れる日々でした。パン作りは気温・湿度・時間により左右されてしまう為、なかなか同じものが出来ず四苦八苦しました。その一方、利用者の皆さんは帽子のかぶり方やマスクの着け方などの衛生面や、器具の名前や使い方などを着々と覚えていきました。いざ、販売となると、責任は重く、お客様の口に入ると思うと中途半端な気持ちでは出来ません。職員間で衛生管理を徹底しました。利用者一人一人でも課題のひとつです。難聴の方などには言葉のみでは伝わらず写真を使ったり表示したり、サインを用いて会話をしたりと工夫しています。

開始当初は、利用者の皆さんが製造工程に加われるのはほんの一部で、朝から作業詰めの毎日だったために、活動を疑問視する声もありました。しかし、「販売」をしていくなかで、この現実を避けられないことだと思えます。そのような中でも利用者の皆さんが『楽しさ』を見つけられるように常に

廃油・残りご飯・苛性ソーダを原料とした廃油洗剤、ステンシルで絵柄づけしたきんちゃく袋も製品として販売しています。ぜひ一度お試しください。



社会福祉法人小羊学園の所在地が変わりました

旧小羊学園児童寮・青年寮の三方原スクエアへの移転と、旧小羊学園敷地の売却にともない、小羊学園の社会福祉法人としての登録所在地が三方原スクエアの地番に変更となりました。

新所在地は、七月一日より浜松市北区三方原町二七〇九番地一二（千四三三―八一〇五）となりました。理事長宛文書はここにお送り下さい。

なお小羊学園の法人本部事務局は、浜松市浜北区平口五〇四二 支援センターわかき内（千四三三―四〇〇四一）です。法人事務に関する文書はこちらにお送りください。



小羊学園跡地(クリストファー大学屋上より)

—小羊学園写真集—
昭和四十四年（開設三年目）に発行された写真を紹介します。

この写真を目にしたことのある方は、今ではもうあまりいないかもしれません。故山浦俊治理事長が、身体に硬縮のある子どもを抱きかかえて、ブランコに乗って、ふんわりと揺れ動く感覚を一緒に楽しんでいます。それを後ろから支えている明子夫人もまた嬉しそうに微笑んでいます。この何気ない一枚の写真には、山浦夫妻が小羊学園を開設しようとした想いのすべてが込められている気がしてなりません。障がいの重い子どもたちとともに笑い、ともに苦勞し、キリストの信仰によってこの身を奉げた信念が伝わってきます。障害福祉サービスが充実していない



この時代に、子どもと心底向き合っ
てともに生活した姿・そして山浦夫
妻の屈託のない笑顔は、小羊学園の
目指す障がいを持った人への支援の
原点ではないかと思うのです。

小羊学園を支える会

小羊学園を支える会総会のごあんない

今年度の総会を下記のとおり開催します。小羊学園をご支援くださっている方（寄付者、ボランティア等、どなたでもご参加できます。）

記

日時 2009年8月30日（日）午後1時半～3時
場所 日本キリスト教団遠州教会1F集會室にて
内容 2008年度事業報告・会計報告
2009年度事業計画・規約改正
講演「小羊学園の現状と課題」稲松理事長

以上

小羊学園を支える会 代表 小林 眞

2009年度寄付金報告

6月受付分 770,200円（35件）
累 計 1,754,523円

小羊学園への寄付金振込み先

（口座名義）「小羊学園を支える会」

郵便振替口座 00890-4-45415
りそな銀行浜松支店（普通）040005
静岡銀行細江支店（普通）043483

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りします。下記へご連絡ください。

三方原スクエア ☎053-414-1833

編集後記

先日、浜北区の自立支援連絡会に出席してきました。自立支援法が制度化された中で、各市町村に自立支援協議会の設置が義務化され、政令市である浜松市は市全体の協議会と、区ごとの連絡会が設けられたようです。浜北区では三つの部会が設置され、各部会が出された提案や報告を元に、障害者施策の提案や要望を施策推進協議会に諮るといことです。参加しながら、地域の福祉関係団体が一同に会することは重要だと思っています。この連絡会が機能し、地域で過される一人一人の意見が施策に反映されることを期待して止みません。
暑い日々が続きます。お身体をどうぞ大切になさってください。
(F)